

●避難の呼びかけに注意

・災害のおそれがあるときは、自ら情報を収集して状況を判断してください。
 ・洪水や土砂災害の被害が予想される場合、状況に応じて、市から①避難準備、②避難勧告、③避難指示が出されます。
 ①避難準備…いつでも避難できるよう準備を始めてください。テレビ、ラジオ、市の広報車などの連絡に注意します。年配者や子供など、避難に時間がかかる人は早めに避難させます。
 ②避難勧告…互いに声を掛け合い、指定された避難場所へ速やかに避難してください。
 ③避難指示…指定された避難場所へ直ちに避難してください。
 ・浸水が始まってからの避難は非常に危険です。浸水前に避難すること。万が一、逃げ遅れた場合、高台や建物の屋上に避難して救助を待ちます。

●正確な情報入手

・天気予報で「所により非常に激しい雨」と表現した場合は、突発的に短時間の大雨(ゲリラ豪雨)が降る可能性があります。
 ・国土交通省や県では、北上川流域の水位と雨量情報を提供しています。
 北上川流域水災害お知らせメール: <http://www.sgm11.thr.mlit.go.jp/main.php/>
 北上川洪水情報 ☎019・654・7066
 ダム洪水情報 ☎019・654・7066

●土砂災害の前兆を見極める

土砂災害の①土石流、②崖崩れ、③地滑りには発生の前兆があります。目撃したら直ちにその場を離れて避難してください。
 ①土石流の前兆…山鳴りが聞こえる。雨が降り続けているのに、川の水位が低下する。急激に川の水が濁り、流木が流れ込む。腐った土の臭いがする。
 ②崖崩れの前兆…崖にひび割れができる。崖から水が湧き出る。
 ③地滑りの前兆…沢や井戸の水が濁る。地面にひび割れができる。斜面から水が噴出する。

(表2) 危険雨量の想定基準

注意が必要	当日雨量が150mmを超えたと 時間雨量が40mmを超えたと
警戒が必要	当日雨量が180mmを超えたと 時間雨量が50mmを超えたと

●浸水災害を想定する

・市で想定している大雨の規模は、北上川全流域で二日間に総雨量194mmが降った場合です。この雨量は昭和22年9月のカスリン台風の1.1倍程度、平成14年7月の台風6号の1.2倍程度にあたります。



TVリモコンのDボタンから降水量を調べられる

(表1) 気象庁発表 降水量の変化

一時間の降水量の変化		
	50mm以上	80mm以上
1976～1986年	162回	10.3回
1987～1997年	177回	11.1回
1998～2009年	238回	18.5回

一日の降水量の変化		
	200mm以上	400mm以上
1976～1986年	120回	4.5回
1987～1997年	150回	5.5回
1998～2009年	184回	11.3回

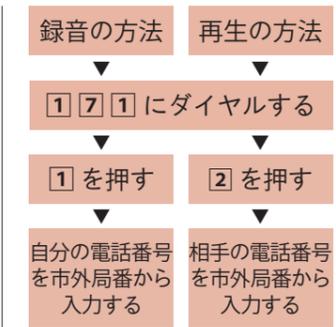
停電や電話会社の発信規制の前には本来の力を発揮できません。そこで二つの情報源を紹介します。
 平成24年に全戸配布した「FMあすも専用ラジオ」は、停電の時でも電池さえ確保すれば、絶え間なく情報を得ることが出来ます。また、屋外で素早く情報を得るための環境整備として、市内全域や特定の地域を対象に情報を発信できる「防災行政情報システム」も、26年度内に完成します。
 非常時は様々な情報が錯綜します。必要な情報を集め、自らの身を守る行動を取る。これを自助と呼びます。

「FMあすも専用ラジオ」は、市が平成24年から市内に住所を持つ全ての世帯と事業所に配布しています。
 日常は、一関コミュニティFM(株)が運営するラジオ番組「あすも」から身近な地域情報や行政情報を聞くことができます。災害時は、割り込み放送や臨時番組から関連情報を伝えます。避難勧告など、人命にかかわる緊急情報は、ラジオが自動で起動してお知らせします。
 平成24年から市内に355基の屋外マスト(スピーカー)を整備。緊急情報や行政情報を市内全域や地域ごとに放送しています。
 屋外マストから放送された内容は電話応答装置(※1)で再確認できます。避難所となる公民館の電話が不通になった時は、無線電話で市役所本庁と消防本部に連絡が可能。緊急時には、屋外マストを手動で操作し、周辺住民へ放送することもできます。

災害時は「このぐらいなら安全」「自分は大丈夫」「他の人が言っていた」と、考えることを放棄してしまうことがままあります。これは、非常時に冷静であろうとするあまり、脳がさせる誤った判断なのです。
 災害時、自分の目で異常や変化を判断するためには、普段から自分の周りの出来事に興味を持つことが大切です。水路は詰まっていないか。雨はどこに流れているのか。交通の妨げになるものはないか。
 思い込みではなく、様々な情報を元に、正しい判断を導くことで自分の身を守りましょう。

171
災害用伝言ダイヤル

NTT東日本で提供している「災害用伝言ダイヤル」は、大規模な災害が発生した場合にサービスが開始されます。171をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがい、伝言の録音と再生を行います。互いの安否を確認することができます。



命を守るための判断を

特集 **災害に備える**
 非常はいつも突然訪れる。乗り切るために最優先すべきこと。それは自助だ

1 **非常の対応は、自助を最優先に**

災害情報で身を守る

一関市は北上川とその支流の氾濫によって、何度も水害に見舞われてきました。
 市は、これまで環境と調和した水害のない地域をめざし、堤防の建設や遊水地事業を進めてきました。それでも自然の猛威を相手に、被害をゼロにすることはできないのです。
 都市化による側溝のコンクリート化、休耕田や不作付地の増加、林地の伐採。様々な要因により、自然の持つ保水機能は弱まっています。そのうえ、突発的に短時間で多量の雨をもたらすゲリラ豪雨は、以前よりも確実に多く発生しています(表1)。
 大雨による浸水や土砂災害から身を守るため、まずは情報を手に入れることが大切です。
 災害時の情報伝達の重要性は言うまでもありません。大きな災害では、一刻を争う非常事態が起きている場合もあります。情報が生死を分けると言っても過言ではないのです。
 普段は便利さや手軽さに秀でるパソコンや携帯電話も、

「FMあすも専用ラジオ」は、市が平成24年から市内に住所を持つ全ての世帯と事業所に配布しています。
 日常は、一関コミュニティFM(株)が運営するラジオ番組「あすも」から身近な地域情報や行政情報を聞くことができます。災害時は、割り込み放送や臨時番組から関連情報を伝えます。避難勧告など、人命にかかわる緊急情報は、ラジオが自動で起動してお知らせします。

▶防災行政情報システム

宮田 敏夫 さん 一関市消防本部 消防課長
 市民の安全を守る情報をいち早く届けたい

防災行政情報システムは、屋外の人々にいち早くサイレンや災害情報を放送します。災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。情報の収集と把握が大切。FMあすもと連携し、市民の安全を守ります。

▶FMあすも専用ラジオ

河合 純子 さん FMあすも パーソナリティ
 すばやく情報を発信する体制を強化したい

ラジオの魅力は、家事や仕事、通勤時間など、合間に聴けること。日頃からラジオを聴く習慣を身につけて、つながっている心強さを感じてほしい。災害情報は、詳しく繰り返すように意識しています。